



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第二八号

平成十六年三月三十一日発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

今後の大学の方向性と 大学院同窓会に期待すること

兵庫教育大学副学長

濱名 外喜男



兵庫教育大学を含む国立大学は、平成十六年四月から法人化されます。その基本的な目的は次の三つです。一つは、学長を中心としたトップマネージメントの実現、次に、大学運営への学

外有識者の参画、そして最後は、大学が設定した中期目標・計画の達成状況に対する評価とそれに基づく大学運営の改善です。
大学の具体的な構想は、六年を一区切りとした中期目標・計画に描かれ、実行に移されます。本学の構想を貫く基本的コンセプトは、「学校教育に係る種々の社会的要請・課題に対応できるような教員の実践的力量形成に対する支援」です。文科大臣に提出した内容から、修士課程の教育に関連した部

分をいくつかとり出してみましよう。
まず、中心になる課題は、教育課程等に関するものです。これは、「入り口」↓「内容」↓「出口」という三つの側面から整理できます。
入り口の課題を具体的に言えば、「修士課程の学生受け入れ方針とそれに沿った入学者選抜の実施計画」です。いま修士課程には、自治体の派遣による現職教員、派遣によらず自らの負担で学ぶ現職教員、修了後に教師になろうとするストレート学生等、いろいろなニーズをもった学生がいます。こうした多様な背景・ニーズをもった学生の選抜方法が同じでよいのかどうかという問題です。現実に、平成十七年度に向けた入試では、多くの専攻・コースで志願者群別に異なる選抜方法の実施が計画されています。
「教育理念に応じた教育課程編成と授業形態・学習指導法の実施」が内容に関する課題です。教育基礎・教育経営・教育方法・生徒指導の四つの講座では、平成十七年度から、学生を受け入れるコース名をそれぞれ「教育コミュニケーションコース」「スクールリーダーコース」「教育内容・方法開発コース」「生徒指導実践コース」に変更し、同時に各コースの専門教育カリキュラムを編成し直し、より適切な教育内容・方法にしようという計画です。
出口の課題は「成績評価、とくに修士の学位授与に関わる対応」です。これに関して特徴的なのはスクールリーダーコースの構想です。このコースでは、近い将来専門職大学院へ移行することを視野において、修士論文に替えて、学校改善に係る戦略立案や組織設計などの実践的課題研究で評価する計画です。
修士課程修了生と大学とを繋ぐ教育実践ネットワークの構築も、中期目標・計画の中心的内容の一つです。五千名を超える修了生は大学の貴重な知的資産です。大学のホームページを活用した情報ネットワークと教員による人的ネットワークによって、学校教育現場の問題解決や教育・研究情報に関するデータ・ベースを構築し、教育実践研究の中核になる拠点形成をしようという構想です。同窓生の皆様の積極的な参加と活用を期待します。

「Hyokyonet」に集おう

大学院同窓会副会長(研究部)

小西豊文

私は、教育方法の3期生である。修了してもう20年がたつ。修了して現場に戻って以来日々無我夢中で月日が過ぎ去ったように感じる。しかし、いつも兵教大大学院の2年間は懐かしく思う。

一昨年、第22回全国同窓会総会を大阪で開催した。当時のゼミの仲間も駆けつけてくれ、十数年ぶりに会うことができた。当時の記憶がもくもくと蘇った。同窓会のいいところは、いろいろな昔話をしている中で、当時の記憶とともに当時の若さや情熱も一緒に心の隅で燃え上がることである。少なくとも、今より学習意欲に燃えていたもう一人の自分に出会えた気がした。

さらに、今年も、第19回教育方法研究会(兵庫教育大学多目的室にて平成16年1月24日開催)に参加することができた。そこで、昨年度の修了生の

研究発表を聴き、私も講演をさせていただいた。全部で5つの発表があり、

自分の専門とはちがうものが殆どであったが、すべて素晴らしい研究内容であり、大いに刺激されたのである。どれも、今の自分の教育実践に活かせるという確信を得た。これらの研究は、こうして聴いた者には少なくとも何らかの糧として残るが、多くの人に知られぬまま眠ることになっているのではないか。もったいなと思った。後の懇親会でも、現院生の人たちの教育研究への情熱を感じることができた。やがて、研究は実るであろう。

こんな大学院での研究が兵庫教育大学大学院に学んだ者の数だけ存在するのである。今や、その数5000を超えているという。さらに、修了生の殆どは実践の場に帰っている。研究は実践という雪の中を転がり転がり、大きな雪

ダルマになっているはずである。その雪ダルマは「実践↓研究↓実践」のサイクルで学んだ極めて高レベルで実践に即活きるものなのである。そんな実践研究の多くは人知れず埋もれてしまっているのだろうか。いや埋もれさせてはならない。

そんな5000の叡知が今掘り起こされ、大学を基点にネットをつながらようとしている。それが「Hyokyonet」(兵庫教育大学教育実践ネットワーク)である。その中身は、濱名副学長先生の原稿にある通りである。中洲学長先生をはじめ、大学側も燃えている。兵庫教育大学の特色やよさが最も出るシステムなのである。やがて大学の事務局からすべての修了生に詳しい資料も届けられるであろう。嬉しいことである。

ネットを現場の課題を解決するため使おう。最新の研究の動向を知ろう。大学の研究を現場に活かそう。自分の研究のための参考文献、資料を収集しよう。：使い方には無限の可能性がある。さらに情報を得るだけでなく、自ら発信しよう。貴重な実践は全国の

仲間を広げよう。こんな「Hyokyonet」はとてつもなく素晴らしい構想だと思う。ネットをつながら5000人のパワーを結集できれば、もしかして、日本の直面している困難な教育課題を解決する起爆剤になるかも知れない。

一方、私にとっては、人的ネットワークから得られる一人一人の同志から実践への意欲とエネルギーを感じとり、それを自らのエネルギー源としたいと考えている。人は人によって勇気づけられる。ネットをつながら5000人から日々刺激を得ながら生き生きとした教育活動を展開したいと思う。

このような「Hyokyonet」の運用に関して、同窓会会員の皆さんの積極的な協力と活用をお願いしたい。

旧交を温めた静岡は、今…

大学院同窓会副会長(組織部)

静岡支部 望月 茂

あれから、ちょうど一〇年前(平成六年の八月)家康の駿府城下町の静岡市にて全国大会が開催された。

当時は、校務の傍ら半年後に迫った大会の企画や準備に追われた記憶がある。松田宏新会長のもと『旧交を温め』をスローガンに、須山嘉七郎理事らの役員で短期決戦での開催であった。

吉田廣会長をはじめ、全国からの会員を含め七〇名あまりの参加であった。総会、そして戦国史研究の第一人者である小和田哲夫静岡大教授による『守護大名今川氏の文化』の講演や懇親会を盛り上げるための駿府伝統の獅子舞などは、今でも心に焼きついている。

活動、懇親会が継続的に開催されている。三年前より、特色を出すため、特に、次のことに力点をおいてきている。

- 一、各会員の同窓会への所属確認と会費の納入をすすめる。
- 二、各地区の組織化と活動を活性化するための本部役員からの連絡を密にする。
- 三、個人の研究発表から「教育フォーラム」形式で、基調発表(提案)をもとに三者のパネラー、そして参加者全員で意見交換を行う。その内容に関連づけて、外部講師の講話や助言がある。(昨年度は、兵庫教育大学でお世話になった徳山明富士常葉大学学長をお招きした。)

今、教育改革が求められている中、実践と理論の一体化を図り、更なる実践研究や交流、親睦などを、静岡でも求めている昨今…。

同窓会京都大会へおこしやす

大学院同窓会監事

京都支部 光島 正豪

千年の古都・京都は世界遺産にも登録され、文化都市として内外に有名です。私自身、京都の落ち着いた佇まい、はんなりとした四季の彩り、食の文化を大切にしたいと考えております。早朝の門掃きの習慣や京野菜の振り売りなどの風情もまだまだ残っております。

大きなビルや道路もありますが、朝夕の山際、山の端を借景とする寺社の建造物は心を癒してくれます。自然をうまく活用して暮らしている感があります。

京都支部は、「嬉洛会」(嬉野台と京洛を結びつける会・気楽な会)という名称で設立され、例年、総会と会員の研究発表、さらに大学等の専門家の講話を聴くという活動を続けてきました。そして、その後の懇親会において、会員相互の情報交換や親睦を深めることに努めてきました。

平成14年度には、「嬉洛会」創立20周年を記念して、中洲正堯学長を夏の京都にお招きし、ご講演とご指導をいただきました。そして、その日の懇親会で、「同窓会京都大会」誘致の声があがりました。

京都の蒸し暑い夏、その夏を快適に過ごす様々な方法が考え出されました。町屋の打ち水、屋内に風が生まれ、その風にころころとなる風鈴の音。鴨川のせせらぎを楽しむ川床もあります。

酷暑の最中の大会となりますが、京都を堪能していただけるよう工夫いたします。京都らしい温かいおもてなし、縁のある恩師や友へのおもてなしができればと考えております。どうぞ、同窓会京都大会へおこしやす。心からお待ちしております。

兵庫教育大学大学院同窓会島根大会記念講演 演題「北東アジアと古代島根」

講師 作家・島根県立大学教授

豊田有恒先生

本同窓会を8月2日(土)～3日(日)に、

松江市内の宍道湖沿いの「ニューアーバンホテル」で開催した。初日に島根県立大学の豊田有恒教授を迎えて、標記の演題で約90分間の講演会を実施した。以下は講演会の要約である。はじめに古代史を考えると島根県から視野に入りやすい外国は朝鮮半島であるといっている。古代史上、朝鮮半島で日本で大きな影響を与えた場所をあげてみると、新羅・百済・高句麗という朝鮮三国である。日本書紀には「三韓」と書いてある。また、韓国の「韓」は、和風で「唐」と表現する。三韓のことは、世間一般に良く知られているのですが、加羅(伽耶)国のことは、あまり知られていない。これが現在の釜山一帯である。新羅という日本海に面した国と百済という黄海に面した国の間に三角形の加羅がある。当時、加羅経

由で対馬、壱岐と渡り、佐賀県の唐津湾に面した呼子に船が着くのが一番安全な航海路だったという。したがって、加羅経由で日本に入ってきた文化との関係を表す一例が韓国神社などであり、日本に多くあったという。

さて、東京から来ると東京の方が裏日本で、島根の方が表日本ということがわかる。東(関東)にかかる枕詞は“鳥が鳴く”ある。また、出雲にかかる枕詞は“八雲立つ”である。しかし、関西でも鳥は鳴くのに、どうして関東の枕詞なのかというと、関東地方は詛が激しく何を言っているのかわからないから、鳥が鳴いているのと同じだという意味らしい。律令時代、奈良時代より、もっと古代を考えると、きっと島根の方が表日本で、東京の方が裏日本であったことがわかる。島根県の大田市には五十猛(いそたけ)という地名がある。神話によると素戔鳴尊(す

さのおのみこと)の子である五十猛神(いそたけるのみかみ)は人間福祉を授ける神である。二人の神は新羅国に至り、曾戸茂梨(そしもり)のところにいたあと、樹種(こだね)をたずさえて大八洲(おおやしま)に帰り、植えたという神話を生んでいる。逆に韓国にも神話が多く残っている。素戔鳴尊の神話もその一つである。先ほどの新羅国の曾戸茂梨(そしもり)のところから、新羅国の神でもあり、つまり朝鮮系の神であろうと言われている。さらに韓国の「韓」についても、韓沢神社、韓国神社、韓島神社など「韓」の付く神社は島根県に多い。八岐大蛇の腹の中からでてくるのも、韓太刀であり「韓」が付いている。これらは、前述した新羅・百済・高句麗の文化が加羅国経由で日本に入り、きっと混合した形で島根県に残ったと考えられる。実際に島根県と「韓(唐)」との関係は、密接であったと推測できる事象であると結んだ。

(文責) 島根支部 岡田 昭彦



人との出会い、支え合い

十四期 生活健康系(体育)
島根支部 足立靖志

縁あって、故清水龍男先生(前島根支部長)と出会い、出発前に激励を受けた。そして修了後、同窓会での活動を通して、色々な方々との出会いが広がった。色々な方々との出会いが人の素晴らしさに気づく。この素晴らしさを互いに感じるからこそ、心を向け合って活動を支え合っていく。この支え合う姿こそ、島根支部同窓会の宝であり、故清水先生の志であると自負している。

そして平成十五年度、全国大会の開催が決定された。私は、事務局として島根支部のチームワークをもってすれば十分に運営ができると感じた。その後、早川求島根支部長を中心として、県本部の組織作りや五つの支部(松江、出雲、浜田、益田、隠岐)の組織作りを会員一同、心を向け合いながら進めていった。

大会当日には、島根県・松江市教育

島根大会に参加して

大学院同窓会理事(総務部)
森 一郎

夕焼けに染まる宍道湖は神秘的な美しさをたたえている。第23回大会はこの美しい水の都松江で開催された。

今年が大学創立25周年ということもあって、同窓会も今までの蓄積された成果と同時に、新しい流れも感じさせるものがあつた。

まず、総会では平成15年度の事業として、大学と同窓会がより連携を深め、相互交流を目的としたネットワークの構想が発表された。また「21世紀の教育への提言」も第2集目の編集作業が開始されていることが公表された。同窓会も会員だけの「閉じた組織」ではなく、大学や社会との接点をもつ「開いた組織」にならねば、と感じた報告であった。

続いている大会記念講演では、作家で島根県立大学教授の豊田有恒氏より古代朝鮮半島の動きについて話をされた。豊田氏の今までの研究成果をふまえて

の内容で、少し専門的などころもあつたが、身近な話題も提供され、大変興味深く聞かせていただいた。

大会最後のメインイベントは懇親会である。ちょうど8月2日〜3日は宍道湖で水郷祭が行われる予定になっており、湖に浮かべた台船から3000発の花火が打ち上げられ、ホテル会場の特等席から30分間の光の芸術を楽しませていただいた。

二日目は松江の町を自由散策ということであつたが、吉田会長ほか数名は、島根県支部の前支部長であつた故清水龍男氏の墓前にお参りをさせていただいた。清水氏はそれまでの兵庫県を中心とした同窓会大会を各県持ち回りで開催させることになったとき、平成3年地元島根県で最初に開催させることに成功されたのである。

大 学 情 報

教育実践資料を大学図書館に寄贈下さい！

授業研究や教材開発研究の参考資料となる現職教師の手に成る強力な参考図書類が、兵庫教育大学附属図書館1階入り口近くの「教育実践資料コーナー」に並べられています。このコーナーは文部科学省、各都道府県教育委員会や各市・郡や町立学校等の研究指定校で作成された研究報告書や、小・中・高校、幼稚園、養護学校で独自に作成された副読本や授業の実践記録などを収集したものです。

また、これらの資料の所蔵については、本学図書館のホームページから、書名や著者、都道府県名や学校種、研究指定者・年などの項目から検索することもできます。

URL <http://libsv01.lib.hyogo-u.ac.jp/qqed/qqed.html>

「兵庫教育大学附属図書館教育実践資料データベース」は、兵庫教育大学に収集された教育実践資料の所蔵を、web上から書名や著者、あるいは都道府県名、学校種や研究指定者・研究指定年などの項目から検索出来るようにしたデータベースです。資料は請求記号（背ラベル）順に並べられています。一般の図書と同じです。もちろん、館内で閲覧できますし貸出しもされています。遠方のかたの場合は、お近くの公共図書館から図書館間貸し出しの制度が利用できます。

(参考・引用 兵庫教育大学学園だより vol.73他)

(文責) 兵庫教育大学助教授
上西 一郎

兵庫教育大学附属図書館の連絡先

教育実践資料の寄贈の仕方…tel.0795-44-2062
データベース関係の問い合わせ…tel.0795-44-2061
E-mail office-2062@office.hyogo-u.ac.jp
FAX…0795-44-2059
URL <http://www.lib.hyogo-u.ac.jp>
住所 〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

研 究 情 報

教育改革を考える～同窓会研究集会から～

大阪府・市兵庫教育大学大学院教育研究会 (OHU教育研究会)
会長 阿比留喜久雄

二月一四日(土)、大阪に於て、大学院同窓会主催の研究集会が開かれた。

本研究集会の趣旨は、現在、急激な教育改革が進められる中で、文部科学省の責任ある担当者を招き、教育改革の方向や中身について理解を深め、兵教大院修了生が現場の提言として意見を伝え、教育改革に組織として寄与したいとの思いから開かれたものである。

はじめに、文部科学省生涯学習政策局政策課長、布村幸彦氏が現在進めている教育改革について、講演をされた。

布村政策課長は、いま求められる教育の構造改革について、理念と具体策を話された。また、教育基本法改正の現状にもふれられ、日本の教育を根本から見直し、新しい時代にふさわしく再構築することが求められることを力説された。

講演をうけ、小西研究部長の進行で会は進んだ。吉田会長をはじめ6名の方より、提言や意見表明があったが、紙面の都合で、そのごく一部を紹介したい。

- 教育改革のうねりをどうつくり出していくか。それは、組織論でもある。公に働く人をどう増やしていくか大きな課題。
 - 教育改革を推進する上での校長の資質・能力の問題をどうすればよいか。校長に人事権・予算権を任せられるか疑問。
 - 中学校では保護者のクラブ活動に対する要望が強く、学力が課題になっていない。また、習熟度別学習は問題点も多いと指摘されているがどうか。
 - 学級崩壊にある状況を改善するために日々苦心しているが、子どもの荒れは家庭教育にも問題が内在しているのではないかと。また、法律として出席停止措置があるが、現場では運用には難しさがある。
- 討議では、教育改革の理念と教育現場とのずれをどうのり越えていくか。校長、教員、家庭・地域の場合について議論が深められた。
- 運動会の昼食時を利用し、あいさつ回りをする。教頭の研修中には授業にも入る。校長は理念も語るが、汗を流すことも必要。
 - 未来志向の教育改革と共に、教育のルネッサンスが必要。古きよき時代の教育を見直す事も大事。
 - 学校が方針を示しても、家庭に浸透しにくい。平素より連携を密にしておく。

これらの意見について、布村政策課長より「学力」については、学習指導要領の改正の内容、「指導力不足教員」「出席停止」等については、法改正した旨の説明があった。「校長のリーダーシップ」について、校長の予算権・人事権だけでなく、主任制も含めた経営態勢の整備が必要との見通しを示された。また、学校評価に関し、教育内容を地域にオープンにし、校長が説明責任を果たしていくことで学校も変わっていく。そのための処遇の改善にも期待感を表明された。

最期に、上寺元学長より、それぞれに難しい学校運営にさらされているだろうが、改革・改善の同調者を増やし、いかに協力体制をつくるかが大事である。温故創新で頑張ってもらいたいと修了生へエールを送られた。

二時間の研究集会があつという間に過ぎ、次の懇親会の場でも議論は続いた。

役員等名簿

自 平成15年6月1日～至 平成17年5月31日

役職名	氏名	ブロック名	各 県 評 議 員																			
会 長	吉田 廣(兵庫)	近 畿 ①	北海道	中村 保	東 京	小山田 稔	滋 賀	田中 吉己	香 川	野島 悟	青 森	小林 一也	神奈川	児玉 祥一	京 都	畑中 佳美	愛 媛	清田 公典				
副 会 長	研究部	小西 豊文(大阪)	近 畿 ③	岩 手	石亀 紀男	新 潟	碓井 欣一	大 阪	小西 豊文	高 知	川崎二三雄	宮 城	今野 英二	富 山	森山 義人	兵 庫	久保 哲成	福 岡	西河 武			
	組織部	望月 茂(静岡)	中部・東海	秋 田	後藤 恒充	石 川	川畑 松晴	奈 良	坂本 憲史	佐 賀	松本 忠義	山 形	佐藤 晃	福 井	小林宗一郎	和歌山	西端 幸信	長 崎	斉藤 寛信			
	総務部	塚崎 博行(兵庫)	近 畿 ①	山 梨	石川不二雄	山 梨	川込 一彦	鳥 取	表 一俊	熊 本	八間川隆彦	茨 城	吉田 重郎	長 野	原 俊朗	島 根	早川 求	大 分	有定 裕雅			
	事業部	岡本喜代治(奈良)	近 畿 ③	栃 木	大島 寿	岐 阜	菅原 昭彦	岡 山	岡本 清	宮 崎	柿木 衛護	会 計 部	北山 鎮道(岡山)	東中国・四国	群 馬	猿谷 端	静 岡	望月 茂	広 島	林 保	鹿児島	村上 良典
	広報部	山下 裕(広島)	西中国・四国	埼 玉	松尾 鉄哉	愛 知	鈴木 均	山 口	河野 勝行	沖 縄	平山 良明	院 生 代 表	上野 彰典(M2)	院 生 協	千 葉	柳生 和男	三 重	田中 勉	徳 島	田村 明敏	神 戸 市	位上 孝之
	院 生 代 表	上野 彰典(M2)	院 生 協	監 事																		
				◎岡崎 弘(和歌山) 位上孝之(兵庫) 石井生滋(兵庫) 石井清文(東京) 川波英一(福岡) 中園大三郎(大阪) 早川 求(島根) 中本幸美(大阪) 福嶋真澄(大阪) 光島正豪(京都) 川崎 寛(和歌山) ◎印は監事長																		
各 ブ ロ ッ ク 代 表 者 氏 名	ブロック名	ブロック長	副ブロック長	担当部	各 部 担 当 者 氏 名 (理 事)																	
	東北・北海道地区	石亀 紀男(岩手)	今野 英二(宮城) 中村 保(北海道)		菅原 廣次(宮城) … (組織部理事へ) 西前 弘幸(岩手) … (組織部理事へ)																	
	関 東 地 区	小山田 稔(東京都)	松尾 鉄城(埼玉) 大島 寿(栃木)		壺内 明(東京) 荒川 兼一(東京) 佐々木良一(埼玉)																	
	中部・東海地区 (福井を含む)	◎牛田敏雄(三重) (◎印はブロック長)	寺田 道夫(岐阜)	組織部 (7名)	鈴木 均(愛知) 川合 康司(岐阜) 牛田 敏雄(三重) 稲 光彦(福井) 須山嘉七郎(静岡) 山田 日吉(岐阜) 勝俣 得男(静岡)																	
	近 畿 地 区 ① (兵庫・京都・滋賀)	久保 哲成(兵庫)	田中 吉己(滋賀) 光島 正豪(京都)	総務部 (5名)	森 一郎(兵庫) 大高 忠(兵庫) 田中 嘉明(兵庫) 畑中 佳美(京都) 松村 喬(滋賀)																	
	近 畿 地 区 ② (大 阪)	阿比留喜久雄 (大阪)	国枝 陽子(大阪) 塩見 能和(大阪)	研究部 (5名)	村部 京子(大阪) 中尾 豊喜(大阪) 武井 英明(大阪) 柴山 雅由(大阪) 菅野 恭介(兵庫)																	
	近 畿 地 区 ③ (奈良・和歌山・ 大阪含む)	浜野 重治(和歌山)	和田 光昭(奈良)	事業部 (5名)	浜野 重治(和歌山) 西端 幸信(和歌山) 伊井 直明(兵庫) 上西 一郎(兵庫) 田先 崇志(兵庫)																	
	西 中 国 地 区 (山口・島根・広島)	西川 敏之(山口)	河野 勝行(山口) 加藤 武行(島根)	広報部 (4名)	市川 博登(広島) 柿手 宣昭(広島) 藤原 尚幸(島根) 毛利 直己(島根)																	
東中国四国地区 (岡山・鳥取・四国)	武 泰稔(岡山)	表 一俊(鳥取) 清田 公典(愛媛)	会計部 (4名)	山崎 文男(高知) 大久保 勉(岡山) 忠田 正(岡山) 楠 博文(岡山)																		
九 州 地 区 (沖縄を含む)	川波 英一(福岡)	林 裕恭(宮崎) 村上 良典(鹿児島)		日高 義治(宮崎) … (組織部理事へ)																		
参 与	武 泰稔 酒巻 成欣 塩瀬 昌雄 右藤 和弘																					

第23回兵庫教育大学大学院同窓会・島根大会



第23回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（島根大会） 平成15年8月2日 於松江ニューアーバンホテル



▲懇親会



▲総会

来年度は
山口大会で
集おう

期日：平成16年8月7日(土)
～8日(日)

会場：セントコア山口

編集後記

第23回兵庫教育大学大学院同窓会島根大会が平成15年8月2日に盛大に開催され、大学から中渕正堯学長・岩田一彦教授をお迎えすることができました。大学との結び付きを確認するとともに、大学の法人化に向けての取り組みの苦労が伝わってきました。

(広島支部広報部)